

## 平成20年度 10月分NGO相談員事業従事報告書2

### ●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

今月は、月末にNGO相談員連絡会議を山形で開催。同時開催として、管轄地区の東北6県のNGOを含む国際活動関係者も招集し、外務省と全国のNGO相談員を交え、活発な意見交換を行なうことが出来た。地域の団体にとって、外務省職員や他県のNGOと会う機会は少なく、また東北は広域なため団体同士で集まる機会もほとんどない。今回は、各団体にとって活動をより良くしていく機会になっただけでなく、団体間の連携体制を作っていくための布石にもなった。また、個別の相談に関しては、下記1に挙げた事例が対応に苦慮した。途上国でのビジネス

### ●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい)。

1	ジェトロファ関連の相談について
相談内容	フィリピンで地球環境の保護や地域住民の収入向上につながるプロジェクトを検討している。バイオ燃料化が出来るジェトロファの植林事業を行ないたい。資金としてODAを利用したいと考えているが、どのように申請をすればよいのか。またODAを受けるにはNPO法人を作るのがよいと聞いたが、どのような手続きが必要なのか。
対応内容	ODA資金を民間が活用するためのスキームはいくつかあり、NGOに限らず、開発系コンサルタント会社や大学なども活用している例がある。NPO法人は、ODAを受託するため条件ではなく、非営利活動をしている団体が法人格を有するため手段。相談者の場合、事業を企画している組織は企業ということなので、わざわざNPO法人を立ち上げる必要はないのではないかと。また、希望している金額が億単位と大きく、通常の民間対象のODAスキームのレベルではない。JICAや外務省などに直接相談を持っていく必要があるのではないかと。
特筆した理由	今年になってから、企業からのジェトロファ・プランテーションについての相談が、何件か寄せられている。途上国支援というよりもビジネスとしての企画である傾向があり、対応に注意が必要と考えられるため。

2	地域の国際交流イベントについて
相談内容	地域の国際交流協会からの相談。地域の国際団体やボランティアとともに国際交流・協働イベントを開催し、その反省会を実施する予定。次年度に向けて、どのようなことを考慮していけばよいか、アドバイスが欲しい。
対応内容	以下の要素を検討するようにアドバイスした。 1) 協会主導の企画立案ではなく、団体、ボランティアが積極的に企画の立案に参加する方向を目指すこと。 2) ボランティアが協会と参加団体をつなぐ役目として関わり、地域の国際系の団体と一般市民が出会う場の創出。 3) 広報として、参加団体の活動内容を掲載したパンフレットを、ボランティアが団体にインタビューしてはどうか？
特筆した理由	地域の国際化協会や関係団体による国際イベントは、各地域で長年行なわれている事業だが、マンネリ化しているものも多い。また、どこも資金難の中、事業継続の是非についても悩んでおり、どの団体でも共通して再検討が必要な事業のひとつであるため。

3	地方でのNGO活動報告会について
相談内容	東京のNGO関係者からの相談。海外事務所の駐在員の帰国時に、全国を回る帰国報告会を定期的に行っている。しかし、近年は地方開催をしても参加者が少ない。費用対効果を考えると、地方での開催は必要ないのではないかという意見も出ている。地方からの視点では、どのように考えるか？
対応内容	地方は中央と比べ、国際協力に関心を持つ人口が絶対的に少ない。手間と経費を考えると、インターネット等をを使った手法と比べ、支持者拡大の効果的な事業ではなくなってきている。しかし、海外の経験を直に聞くことが出来る機会は貴重であり、特に地方ではそのような機会が少ない。単なる報告会ではなく魅力的な企画を工夫したり、事前広報に力を入れるなど、改善の余地もあるかもしれない。
特筆した理由	地方での支持者集めは、東京だけでなく地方のNGOにとっても課題。長い不況による地域経済の不振で内向き思考の人も多く、国際活動への理解促進は難しい。今後対策が必要な課題であるため。